

今でもよく覚えていますし、いい経験になったと思っています。

剛士 そうだね、そういう海外への研修制度があるだけで、白糠高校へ行きたいと思う人がいるかもしれない。子どもたちが高校へ進学するときや就職するときには町外へ行ってしまい、そのまま白糠へは戻ってこないというのはさみしいですね。まちの将来を考えたら、小さな子どもたちだけではなく、その後の支援もあればいいかなと思います。私は仕事柄、異動があるので、いずれは白糠から転出することになるとは思いますが、子どもたちがこども園や学校で楽しく過ごしているのを見ると、できる限り白糠町で暮らしたいと思います。

佳世 私は東京や横浜で暮らして

いましたので、自然豊かな北海道での暮らしには、なじみがなかったのですが「住めば都」ではないですけど、子育てもしやすいですし、ときには家族でキャンプに行ったり、潮干狩りに行ったり、山菜取りをしたりと、気軽にアウトドアも楽しめるので、北海道に来て本当に良かったなと思っています。自然豊かな白糠町で子育て

をすることで、子どもたちも伸び伸びと育っている気がします。白糠での暮らしは魅力的です。

ふるさと納税の寄付にも感謝。

佳世 昨年、新生児用の防災用品

を棚野町長から手渡され、その時に町長が「子どもは町の宝」とおっしゃっていました。そのことが本当によく分かるくらい白糠の子育て支援は充実していると思います。こども園や学校の施設も新しく、防災や勉強のできる環境が整っていますし、逍遙公園も遊具などが整備され充実しています。西庶路のふれあい公園には「ふわ



ふわドーム」もあります。

剛士 白糠に道立広域公園ができると聞いていますが、早く完成しないかなと思っています。道の駅も新しくなりますし、待ち遠しいです。

佳世 私の大学時代の友人や元会社の同僚から「白糠にふるさと納税の寄付をして、お礼にいただいたエンペラーサーモンがとてもおいしかったよ」というお話を聞きました。こうしたふるさと納税の寄付が私たちの子育てにつながっていると思うと、本当にありがたいなと思います。欲を言えば、小児科医がいなくて、週に1回でもいいから白糠に来てくれたらいいなと思います。シラトピア券も「しらぬか応援券」のように、いろいろなところで使えたらいいのですが。

剛士 本音を言えばそうですね、もらえるだけありがたいよね。

佳世 確かにそうだね。

剛士 せっかくの機会ですので、ひとつお話をさせていただきたいのですが、私は獣医をやっていますので、酪農家さんたちの暮らしを間近で見えています。酪農家の皆さんは、今すごく苦しい生活をして

いて、特にここ数年は円安や物価高で大変な思いをしています。どの業種も大変だとは思いますが、酪農は乳価が頭打ちされ、入ってくる収入は決められているのに、出ていく出費はどんどん増えています。加えて365日休みもありません。酪農はなかなか報われない仕事だなと、牛に携わる者として歯がゆく思っています。酪農は町を支えてきた基幹産業の一つですので、酪農業界を支える白糠独自の支援制度(※5)があれば、酪農の発展とともに町もさらに発展していくのではないかと思います。

※5 今年度「自給飼料生産向上対策事業補助金」を創設しました。酪農・畜産経営の安定化を図るため、自給飼料の増産を目指す酪農・畜産農家、農業法人に対して、経費の一部を助成する補助事業を新たに展開します。補助事業は、草地更新および飼料畑整備に係る経費の一部を町が補助するものです(補助率:受益者負担分の2分の1)。
問合せ/役場経済課農政係 ☎ 2-2171内線(254・258)